

平成 28 年 2 月 3 日

日本調剤株式会社

**日本調剤・自主企画調査
花粉症経験者に聞いた『2016 花粉症の実態と対策』**

約 4 割は花粉症で「病院に行かない」、行かない理由は“我慢できる”
治療薬以外で行っている対策トップ 2 は、「マスク」(68.5%)、「うがい・手洗」(48.3%)
治療薬を使うのは、6 割近くが花粉症を発症してから

全国 47 都道府県で調剤薬局を展開する日本調剤株式会社(本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役社長 三津原 博)は、昨年に引き続き、自主企画調査『2016 花粉症の実態と対策』調査を実施しました。

本調査は、これまでに花粉症と自覚・診断されたことがある花粉症経験者・全国の 20 歳～70 歳以上の男女 1,053 人を対象に、2016 年 1 月 14 日～15 日の期間にインターネット調査で実施し、その結果をまとめました。

※花粉症は、スギやヒノキなどの植物の花粉(抗原)が原因となって起こるアレルギー疾患の一つです。

**調査結果のポイント**

日本気象協会の発表によると、2016 年春のスギ花粉の飛散開始は、西日本と東日本で例年より早く、北日本は例年並みとなる見込み。

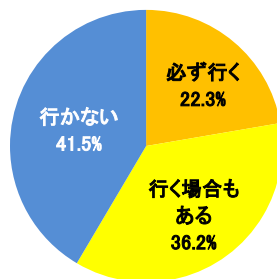
花粉の飛散量は例年に比べると、ほとんどの地域で少なめですが、東北地方はやや多くなると予測されます。

そこで、本格的な春の花粉症シーズンに先駆け、全国の花粉症経験者 1,053 人に花粉症の実態と対策を聞いた結果、以下のことがわかりました。

1. 花粉によるアレルギー症状の原因となる植物の花粉は一年中飛散している。そこで、花粉症経験者に一番花粉症の症状がひどい季節を聞いた結果、圧倒的に春(3 月～5 月)が多く、9 割以上(90.4%)の人が春に花粉症を発症している。
2. 花粉症の症状トップ 5 は、1 位「鼻水・鼻づまり」(87.1%)、2 位「目のかゆみ」(81.9%)、3 位「くしゃみ・咳」(56.4%)、4 位「鼻のかゆみ」(40.5%)、5 位「目の充血・涙目」(34.8%)。

3. 花粉症の治療には6割近い人が病院に行く(「必ず行く」22.3%+「行く場合もある」36.2%)。女性70代以上は最も病院に行く割合が高く72.1%。一方、男性30代の5割以上は病院に「行かない」。

花粉症の治療で病院に行くか(単数回答)n=1053



4. 『病院に行かない』人の行かない理由は、「我慢できる程度だから」(49.9%)、「市販薬で十分だと思うから」(29.2%)、「面倒だから」(25.5%)。男性30代の最も多い理由は、「面倒だから」(44.4%)。
5. 花粉症治療で病院に行った場合、1回の診察費や治療薬費は「1000～2000円程度」が最も多く42.5%、次いで「2000～3000円程度」27.6%。
6. 治療薬を使用するタイミングは、「花粉症がひどい時だけ使用する」人が最も多く29.0%、次いで「花粉症が発症してから使用する」(28.4%)となり、6割近い人が治療薬は症状が出てから使用している。
7. 現在使用している治療薬に対する満足度は、「やや満足している」(39.7%)、「満足している」(12.3%)で、満足感を得ている人は約5割。
8. 花粉症の治療薬で影響が出た場合、6割以上の人は医師や薬剤師に“相談する”(「必ず相談する」25.7%+「相談することもある」37.4%)。性年代別で、最も“相談する”割合が高いのは女性30代(75.3%)。一方、男性40代は「まったく相談しない」(25.8%)割合が最も高い。
9. 治療薬以外に行っている花粉症対策トップ2は、1位「マスクをする」(68.5%)、2位「うがい・手洗いをする」(48.3%)の基本的な対策が圧倒的に多い。

【調査概要】

調査方法:インターネット調査

調査地域:全国

調査対象者:花粉症と自覚・診断されたことがある花粉症経験者 20歳～70歳以上の男女 1,053人

サンプル構成:全体 1,053 男性 526 女性 527

20～29歳(全体 176 男性 87 女性 89)

30～39歳(全体 173 男性 88 女性 85)

40～49歳(全体 177 男性 89 女性 88)

50～59歳(全体 177 男性 88 女性 89)

60～69歳(全体 178 男性 88 女性 90)

70歳以上(全体 172 男性 86 女性 86)

調査期間:2016年1月14日(木)～1月15日(金)

調査手法:株式会社インテージに委託して、インターネット調査で実施

※グラフのパーセンテージは四捨五入されているため合計値が100にならないものもございます。



薬剤師からのアドバイス ～知っておいて役立つ花粉症の豆知識～

◇花粉症のメカニズム

花粉症は、アレルギー性疾患の一つで、「季節性アレルギー性鼻炎」「季節性アレルギー性結膜炎」などの総称です。花粉症の原因となる花粉はスギ・ヒノキ・ブタクサ・ヨモギ・セイタカアキノキリンソウなど、一年を通してさまざまありますが、特に春先になると、スギ花粉による花粉症の症状の方が多くなります。

そのメカニズムは、まず口や鼻・目に花粉が入ると、体がそれを「異物」と判断します。その異物から体を守ろうとして起こるのが花粉症の症状です。花粉が体に入るのを感じてくしゃみで体の外に出す、鼻水で洗い流す、鼻づまりを起こすなどで、花粉を体の中に入りにくくする人の体の作用です。

主な症状のいくつかは、かぜや他の病気の症状と重なるものがあり、鼻水やくしゃみが出るので花粉症初期には「あれ？かぜひいたのかな？でもなんか違う…」と戸惑う方もいます。自分ではわかりにくいものなので、思い当たる症状があれば、早めに医師の診察を受けることをおすすめします。

◇花粉症の薬～早めに服用した方がよい薬も！

花粉症とわかったら、まず「マスク」「うがい・手洗い」などで、できるだけ花粉を吸い込まないように心掛けましょう。また、お酒やタバコを控える、食事や運動に気を配るなどして日頃の生活習慣を改善し、体の免疫力を高めることも大切といわれています。

また、花粉症の症状を抑えるためにさまざまな形の治療薬があります。医師や薬剤師に相談して、自分の症状に合った薬を選びましょう。症状が出始めてからすぐに服用することで重症化を防ぐことができる薬もあります。日常生活の質を保つためにも、専門家に相談して早めの対処をおすすめします。

◇気軽に薬局に相談してみよう

症状が出てきたら、早めに医療機関を受診した方が症状の改善につながります。しかし、自覚症状が軽い、あるいは忙しくて病院に行くことが難しいという方は、身近にある薬局で相談することをおすすめします。

薬局には病院に行かなくても買うことができる市販薬もあります。市販薬を使いたい場合は、薬局の薬剤師に相談してみてください。

「たかが花粉症の薬」と、自己判断で薬を使用することは危険な場合があります。たとえば、他の病気で飲んでいる薬と市販薬を同時期に使用する場合や、体質や、過去にかかったことのある病気によっては、薬を選ぶ際には注意しないといけないことがあります。そのため、専門家である薬剤師に相談することをおすすめします。

また、薬局では薬だけでなく、マスク等の花粉症ケアの商品もあります。薬局を賢く活用して花粉症対策を行い、快適な日常生活を送ることができるようにしましょう。

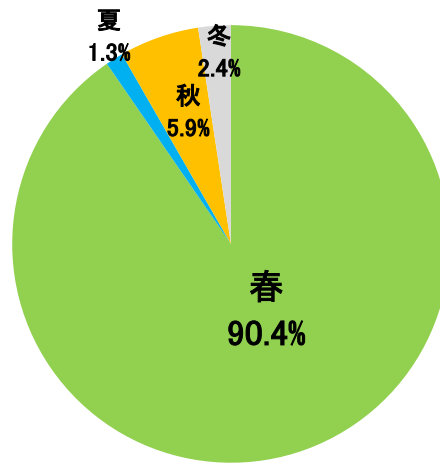
(監修: 日本調剤 教育情報部)

【調査結果】

Q1 春夏秋冬のうちで、花粉症の症状が一番ひどい季節はいつですか。(回答は1つ)

花粉によるアレルギー症状の原因となる植物の花粉は一年中飛散している。そこで、花粉症経験者がどの季節に一番花粉症の症状がひどいかを聞いたところ、圧倒的に春(3月～5月)が多く、9割以上(90.4%)の人が春に花粉症を発症している。

[図 1]花粉症の症状が一番ひどい季節(単数回答)n=1053



Q2 花粉症の症状としては、どのような症状がありますか。(回答はいくつでも)

花粉症で起こる症状のトップ5は、1位「鼻水・鼻づまり」(87.1%)、2位「目のかゆみ」(81.9%)、3位「くしゃみ・咳」(56.4%)、4位「鼻のかゆみ」(40.5%)、5位「目の充血・涙目」(34.8%)となった。

[表 2]花粉症の症状(複数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1053	100.0
鼻水・鼻づまり	917	87.1
目のかゆみ	862	81.9
くしゃみ・咳	594	56.4
鼻のかゆみ	426	40.5
目の充血・涙目	366	34.8
頭がボーっとする	259	24.6
のどの痛み・かゆみ	219	20.8
倦怠感	181	17.2
皮膚のかゆみ・肌荒れ	165	15.7
目やに・目の痛み	160	15.2
頭痛	127	12.1
眠気	101	9.6
耳の痛み・かゆみ	93	8.8
発熱	39	3.7
その他	7	0.7

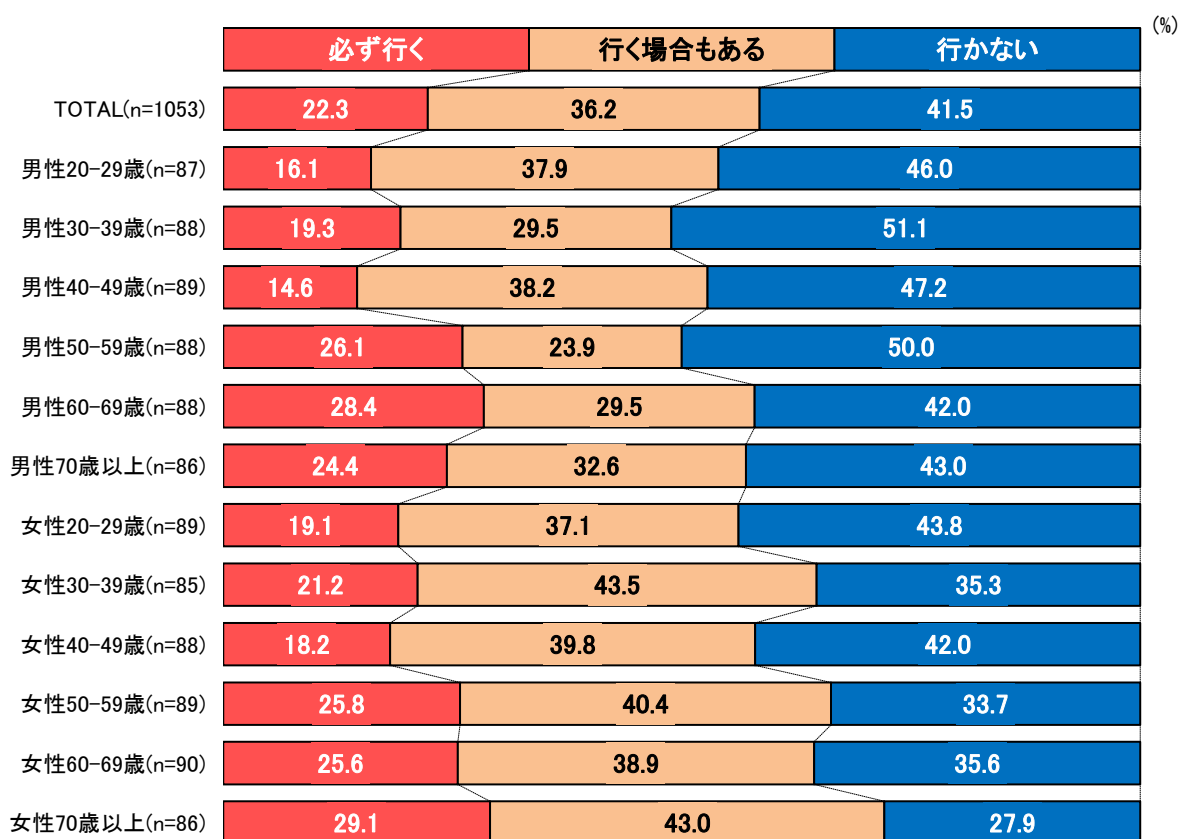
Q3 花粉症の治療には、病院に行きますか。(回答は1つ)

※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

花粉症の治療で病院に行くかを聞いた結果、「必ず行く」は22.3%、「行く場合もある」も36.2%となり、6割近い人は花粉症治療で病院に行くとは回答。

性年代別でみると、『病院に行く(必ず行く+行く場合もある)』割合は女性の方が高い傾向。最も高いのは女性70代以上(72.1%)。次いで女性50代(66.2%)、女性30代(64.7%)となった。一方、「行かない」割合が最も高いのは男性30代(51.1%)。次いで男性50代(50.0%)、男性40代(47.2%)となった。

[図3]性年代別：花粉症の治療で病院に行くか(単数回答)



Q4 花粉症の治療で病院に行かない理由はなんですか。(回答はいくつでも)

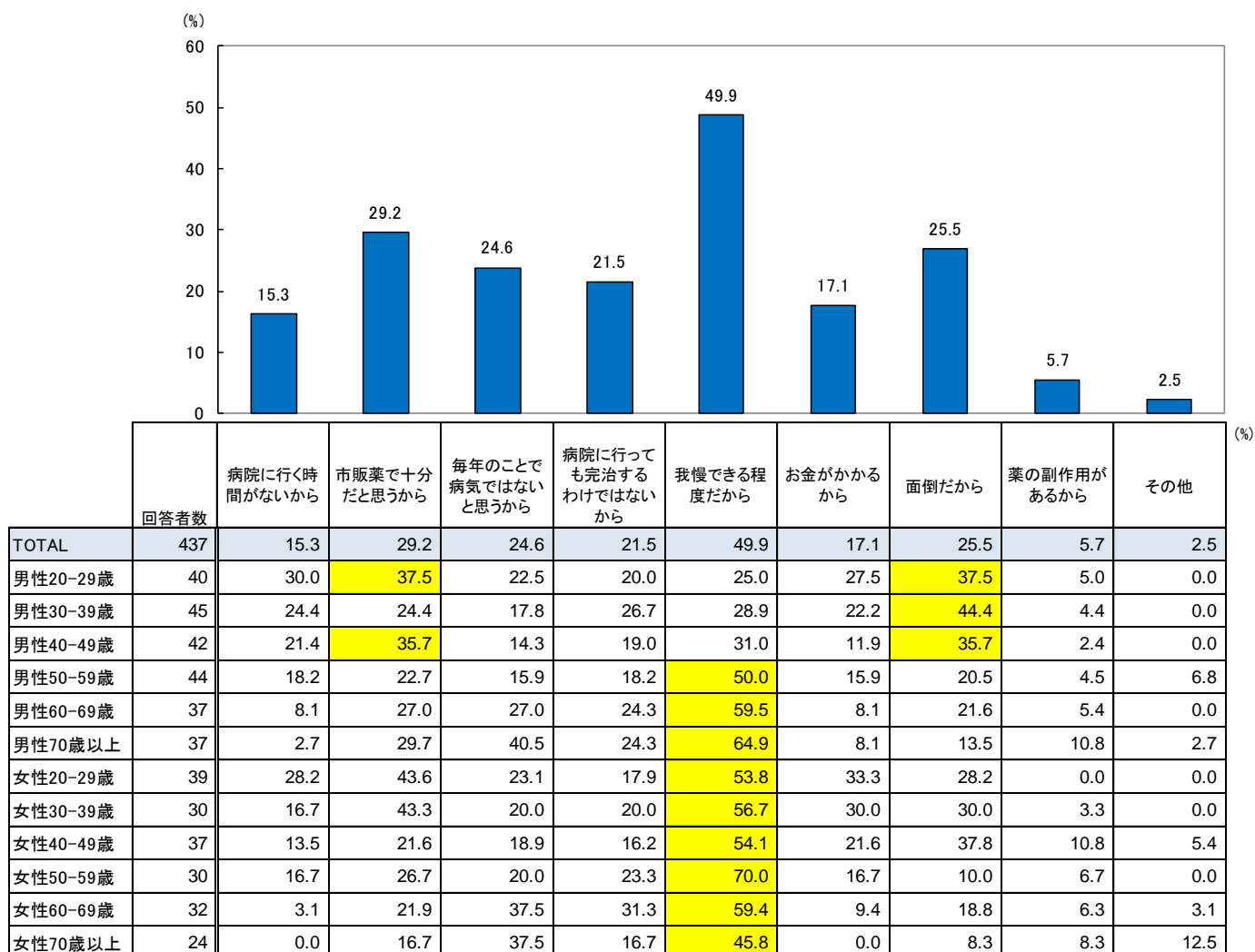
※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

【回答者: Q3 で「病院に行かない」と回答した人】

花粉症の治療で『病院に行かない』と回答した人の、行かない理由として最も多いのは「我慢できる程度だから」49.9%となった。次いで「市販薬で十分だと思うから」(29.2%)、「面倒だから」(25.5%)。

性年代別でみると、男性 20 代・30 代・40 代の病院に行かない理由では、「面倒だから」(37.5%・44.4%・35.7%)の割合が高い。

[図表 4] 性年代別: 病院に行かない人の「行かない理由」(複数回答)



Q5 花粉症の治療で病院に行った場合、診察費・治療薬費の自己負担は1回でいくぐらいかかりますか。

(回答は1つ)

※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めてお答えください。

【回答者: Q3で「病院に行く」と回答した人】

花粉症の治療で『病院に行く』と回答した人の1回の診察費や治療薬費でかかった費用は、「1000～2000円程度」が最も多く42.5%、次いで「2000～3000円程度」27.6%。

[表 5] 病院での花粉症治療費(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	616	100.0
1000円以下	85	13.8
1000円～2000円程度	262	42.5
2000円～3000円程度	170	27.6
3000円～4000円程度	61	9.9
5000円～6000円程度	19	3.1
7000円～8000円程度	3	0.5
9000円～10000円程度	5	0.8
10000円以上	1	0.2
その他	10	1.6

Q6 花粉症の治療薬(処方薬、市販薬を含む)を使用する場合、いつごろから使用しますか。(回答は1つ)

※治療薬は、内服薬・外用薬(点眼薬、点鼻薬、軟膏など)を含めてお答えください。

花粉症の治療薬(内服薬、外用薬含む)を使用する人が、どのタイミングで使用するのかを聞いたところ、「花粉症がひどい時だけ使用する」人が最も多く29.0%、次いで「花粉症が発症してから使用する」(28.4%)となり、約6割の人は症状が出てから治療薬を使用している。また、治療薬を使わない人も2割以上いる。

[表 6] 花粉症の治療薬を使用するタイミング(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1053	100.0
花粉症が発症する前から使用し始める	219	20.8
花粉症が発症してから使用する	299	28.4
花粉症がひどい時だけ使用する	305	29.0
その他	8	0.8
花粉症の治療薬を使用しない	222	21.1

Q7 使用している治療薬(処方薬、市販薬を含む)には満足していますか。(回答は1つ)

※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めて、治療薬全体についてお答えください。

【回答者:Q6で内服薬・外用薬のいずれかを「使用している」と回答した人】

現在使用している治療薬に対して、「満足している」は12.3%、「やや満足している」が39.7%となり、“満足している人”は52.0%。半数近くの人には満足感を得ていず、約1割は現在の治療薬に“不満”がある。

[表 7] 治療薬の満足度(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	831	100.0
満足している	102	12.3
やや満足している	330	39.7
どちらともいえない	317	38.1
やや不満がある	59	7.1
不満がある	23	2.8

Q8 花粉症の治療薬を使用して何らかの影響が出た場合、医師や薬剤師に相談しますか。(回答は1つ)

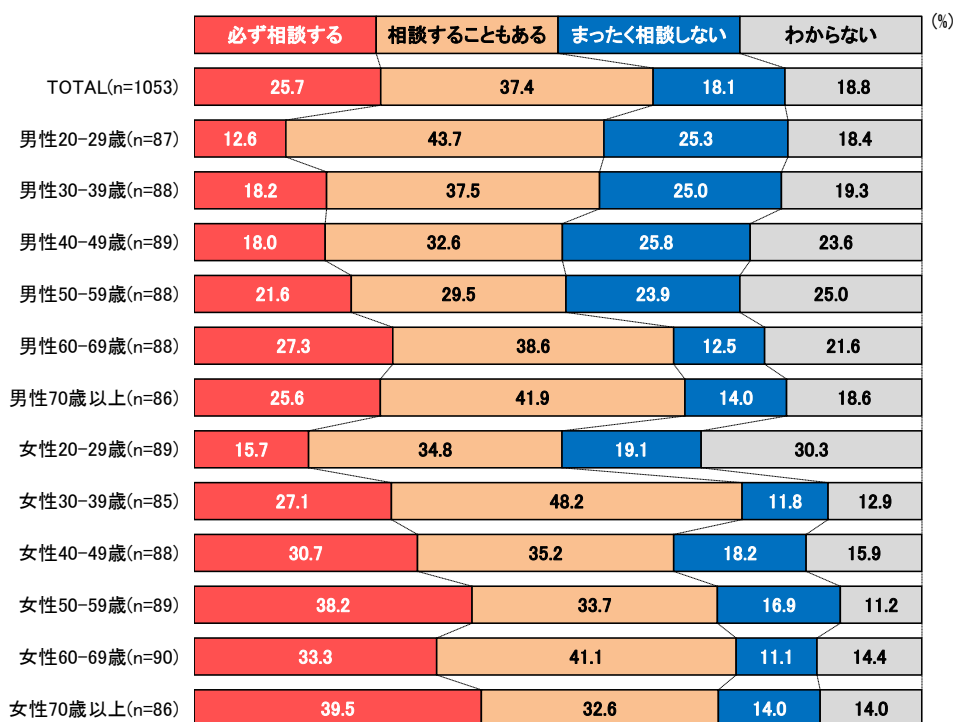
※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めてお答えください。

※これまで薬の影響が出たことがない方は、影響が出た場合を想定してお答えください。

花粉症の治療薬で影響が出た場合、医師や薬剤師に相談するかを聞いたところ、「必ず相談する」人が25.7%、「相談することもある」は37.4%となり、6割以上の方は相談する模様。

性年代別でみると、相談する(「必ず相談する」+「相談することもある」)人が最も多いのは女性30代で75.3%、次いで女性60代(74.4%)と7割以上が相談する。一方、男性40代は「まったく相談しない」(25.8%)割合が最も高い結果となった。

[図 8] 性年代別:治療薬の影響に対する、医師や薬剤師への相談(単数回答)



Q9 花粉症対策として、治療薬の使用以外で日ごろから行っている対策はありますか。主に行っている対策を3つまでお答えください。(回答は3つまで)

花粉症対策で治療薬の使用以外に行っている対策トップ5は、1位「マスクをする」(68.5%)、2位「うがい・手洗いをする」(48.3%)、3位「空気清浄器を使用する」(15.2%)、4位「洗濯物や布団を屋外に干さない」(14.7%)、5位「洗眼薬を使用する」(12.7%)となり、マスク、うがい・手洗いといった基本的な対策が上位を占めた。

[表 9] 治療薬以外の花粉症対策トップ 10

	花粉症対策	%
1位	マスクをする	68.5
2位	うがい・手洗いをする	48.3
3位	空気清浄器を使用する	15.2
4位	洗濯物や布団を屋外に干さない	14.7
5位	洗眼薬を使用する	12.4
6位	窓を開けないようにする	11.2
7位	鼻孔に塗る薬を使用する	8.7
8位	鼻うがいをする	7.4
9位	掃除をこまめにする	7.1
10位	外出する頻度を減らす	5.5

【日本調剤株式会社について】 <http://www.nicho.co.jp/>

1980(昭和 55)年の創業以来、一貫して国の健康保険制度を支える調剤薬局のあるべき機能・役割を全うすべく「医薬分業」を追求し、調剤薬局 展開を積極的に行っている。現在では、全都道府県に調剤薬局を展開し約 2,500 名の薬剤師を有する、日本を代表する調剤薬局企業として評価を得ており、さらに超高齢社会に必要とされる良質な医療サービスを提供する“調剤薬局の新しい姿”を追い求めて、取り組んでいる。

【本ニュースリリースに関するお問い合わせ先】

■日本調剤株式会社 広報部 広報担当

TEL:03-6810-0826 FAX:03-3201-1510

E-Mail:pr-info@nicho.co.jp